

'12年度 入学式・体育大会



新校長挨拶

今年の3月は例年よりも寒く、桜の開花も遅れました。

桜、ハナミツキ、ツツジ、ヒトツバタゴ、バラと、その後の季節も学校の樹木は次々と私たちの目を楽しませてくれました。

花それぞれに「開花」の時期があり、それが私たちには「一番いい時期」に見えるのですが、

その樹木にとっては実は「実を結ぶ時」が「一番いい時期」なのでしょう。

自分の思惑とは違ふ、敵とした他者の都合、他者の「思惑」にも思いを致したいと思います。



学校長 井戸 裕久

柔道部 全国大会出場を果たしました

愛知県武道館を会場に、第66回愛知県高等学校総合体育大会柔道競技県大会が開催されました。例年各階級で入賞しておりますが、今年度は女子7階級のうち5階級制覇し、全国大会に出場することが決まりました。また、女子団体の部でも全国大会に出場します。

今年度の高校総体は「北信越かがやき総体」として、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県で開催されます。柔道競技女子は富山県射水市にあるアルビス小杉総合体育センターを会場に、8月4日から6日にかけて行われます。引き続き応援をお願いします。

(柔道部顧問 藤山 茂)



女子団体	優勝	→全国大会出場	女子70kg級	優勝	中村 友美	→全国大会出場
女子48kg級	第3位	向川 春美	女子70kg級	第2位	岩鼻理香子	→東海大会出場
女子52kg級	優勝	金森 円花	女子70kg級	第3位	森 彩華	
女子57kg級	優勝	平岩 亜扇	女子78kg級	優勝	山本ももこ	→全国大会出場
女子63kg級	優勝	中村 綾	女子78kg級	第2位	上山 慧真	→東海大会出場

PTA会長のことば



本年度PTA会長を務める山田と申します。よろしくお願い申し上げます。

さて1年生の父母の皆さん、お子様が同朋高校に入学され早3ヶ月が過ぎますが、お子様の状況は如何でしょうか。この3ヶ月は体育大会をはじめ、自由選択講座などお子さんが初めて見聞きする色々な行事が行われました。何か変化を感じられましたか？

では父母の皆さんは如何でしょうか。新入生歓迎会、学級懇談会、学園父母懇談会など同朋高校は父母の皆さんにご参加を頂き、お子様の学園生活を、同朋高校を、より一層理解いただけるイベントが多数用意され、父母と教師の距離を縮める努力がなされています。

この機会に今まで少し距離のあった学校との関係を大きく変えてみては如何でしょうか。あたかも御自身が入学したのではないかと思います。同朋高校はそんな学校です。皆さんの積極的な御参加をお待ちしています。(山田 恭敬)

PTA新役員



会長	山田 恭敬	会計監査	高木 貴子
副会長	竹田 恵一	事業委員長	近藤圭伊子
副会長	丸井 博子	文化委員長	奥村 京子
副会長	小林 史砂	生活指導委員長	森 麻理
会計	黒井 章広	地域懇談委員長	坂井 美恵
会計監査	河合友佳子		

Schedule (行事予定)

6月		
25 月	期末考査(～29日(金))	
7月		
9 月	三者懇談会(～13日(金))	
12 木	芸術鑑賞	
13 金	終業式	
28 土	2年生白馬合宿(～8月1日(水))	
8月		
24 金	出校日	
31 金	始業式	

ウエサカ祭

5月18日(金)覚王山日泰寺を会場に、釈尊の誕生・成道・涅槃をあわせてお祈りするウエサカ祭が行われました。本校からは1年生クラス連合と音楽科聖歌隊が参加しました。



地域懇談会

学年・クラスの枠を超えて、地域別に本音で語り合う「地域懇談会」も、今年で36回目を迎えます。今回は「みんな来て来て！本音でトーク ～だれでもどこでも同朋女子会+α(男性歓迎)～」をテーマに、各会場趣向を凝らしてアットホームな雰囲気の下実施します。詳細はお子様を通じて案内いたしましたので、ご確認ください。

6月30日(土) 在学地域を
7月 1日(日) 25地域に分け、
7月 7日(土) この4日間の
7月 8日(日) いずれかで実施します。

※校舎改修工事の都合上、4月に発表した行事予定と一部変更しております。

新任・新担任として

初めまして。1年10組の担任をさせて頂いております、松原久美子です。

担任をすることが決まり、生徒が入学するまでの間、楽しみ半分・不安半分で過ごしてきました。生徒が同朋高校を卒業する時には、「同朋高校に来てよかった」と思えるような高校生活となるようサポートしていきたいと考えています。

実際にクラスがスタートすると、生徒にどのように伝えればいいのかと悩み、思いをぶつけるという試行錯誤の毎日です。初担任ということもあり、立ち止まることの方が多いと思いますが、その中で生徒がプラスの方向に向かうように初心を忘れず、日々、努力していきたいです。



商業科

松原 久美子 先生

今年度から理科の専任教員として働かせていただくことになりました榎木振一郎です。昨年度は他校で非常勤講師として働いていました。今年度は2年生の副担任を務めながら同朋高校の活気あふれる様々な行事に参加し、同朋高校の教員としての姿勢を学ぶとともに、昨年の経験を本校にも取り入れていきたいと考えています。

生活指導面では、思いやりのある社会をこの同朋高校から発信していけるように「正しい道徳観と倫理観」を持った生徒の育成を目指します。また、理科教員としては、生徒の心に残るような授業を行い、自然科学を身近なものとして感じてもらえるように頑張っていきたいと思います。



理科

榎木 振一郎 先生

今年から音楽科の210の担任になりました篠田亜季です。昨年度までは中学校で教えていましたので、赴任当初は「高校生」という「大人」に圧倒されました。

初めてクラス担任を務めますので、4月は自分自身いっぱいになり、クラスの生徒と向き合う余裕がありませんでした。しかし、せっかくの担任という素晴らしい仕事に就かせてもらったのに、このまま無駄な時間を過ごすのはもったいない!!と思い、とにかく自分がやれること、みんなにやってあげたいことを考え、取り組んでいる最中です。

笑顔忘れずに、この奇跡の出会いが人生の宝物になるよう、みんなとたくさん笑い、大切に育てていきたいです。



音楽科

篠田 亜季 先生

1年2組を任されることが決まってから理想のクラスについて考えてきました。私の中でのとりあえずの結論は、生徒が「公共心」を持っているクラスです。

1年2組は37人ですので、1人が36人に貢献できるようなクラスであって欲しいと思います。「人が落としたゴミでも自分が拾う」「移動教室の時に残っている子がいれば声をかける」「授業で小テストや提出物があればみんなで確認し合う」そんな習慣の結果として37人全員が成長する。

近い将来、彼らが社会を創っていくわけですから、みんなが住みやすい豊かな社会を創っていくような人間に成長して欲しいと思っています。



英語科

嶋崎 雄一朗 先生



12年度 入学式

●'12年度 在籍者数(4月6日現在)

	男子	女子	計
普通科	472	398	870
商業科	58	187	245
音楽科	7	59	66
計	537	644	1181

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、今日まで慈しみ育ててこられた保護者の皆さま、ご家族の皆さま、本日は誠にありがとうございます。教職員を代表しまして、心よりお喜び申し上げます。

また、本日は多数の方のご列席を賜りました。ご来賓の皆さまや学園関係の方々には深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

今季節は桜がよく話題となります。本校でもまるで皆さんの入学を待っていたかのように校内の桜が咲き始めました。厳しい冬を越すから桜は素晴らしい。長い冬に耐えて出番を待っていたからこそ、美しく咲きにおつ。それは花自体がそうであるだけでなく、開花を待つ私たちの期待もあるからなのでしょう。ちようど迎えた私たちは、たとえてみれば開花を待ち望む人、皆さんは桜の花なのかも知れません。それほどにまで皆さんのご入学を心待ちにしておりました。

そうか。開花そのものは自然の営みで、時期が来れば自然に咲くと私たちは思っています。けれども実は、桜は時間が経てば自然と咲く、というようにはできていません。春に咲く花の芽は前の年の夏に作られます。その花芽は途中で成長をやめ、休眠状態に入ります。一旦成長を止めるから、開花にふさわしい穏やかな日であるのに秋には普通は咲きません。さて、休眠した花芽は冬の季節に一定の期間低温に曝される。そして初めて眠りから覚め、密かに開花の準備を始めます。成長を止めて休む「休眠」に対して、それを破るのが「休眠打破」。その役割を果たすが実は冬の寒さなのです。寒さが役立つ、なんて、何か変な感じがします。暖かくなるから開花する、ではなく、寒さに曝されて目を覚まし、開花の準備をする。寒さの中で花芽は耐えて春を待つといった受け身の姿勢をとるのではなく、むしろ寒さに向かいつて進んで伸びようとする。ご存じだったかも知れませんが、以上が桜の開花の物語です。さて、これを私たちに当てはめたらどうでしょうか。先ほど私は皆さんが桜、待ちわびるのは私たち、と言いました。振り返ってみて皆さんは桜のように寒さに向かいつて花咲かせようと努めてきたでしょうか。多分多くの新入生が胸を張って努力したと言ってくれると思います。が、ちようとしてこそまでは、という人も中にはいるかも知れません。

私たちはいつい寒さを嫌い暖かさを求めます。いや、実は寒さばかりではありません。同じように私たちの人生にはたくさん「で」きたい。苦しい毎日も避けた。それよりもゆとりの日々、穏やかな安心がほしい。「楽」であることが「幸せ」であるかのように考えて、遊んで暮らせることを望んだりします。けれど、本当にそうでしょうか。毎日平穩、何のストレスもないのが幸せな生活と本当に言えるのでしょうか。昨日のように今日が進み、今日のよう明日が来るという毎日は、実は何の変化もない、平凡な日々の連続です。きょうと今度は逆に毎日が「変化のないつまらない日々」と思

えることでしょうか。現に昔話の浦島太郎は遊んで暮らせる楽な生活に飽きて元の村に帰ろうとします。結果はとんでもないことになるのですが、では浦島太郎は後悔したのでしょうか。平穩な生活には飽き足りないのが人間です。桜と同じように、むしろ寒さに向かいつていく、それが人間の本来あるべき姿ではないか、そんなふうに思われてなりません。

さて、今日を節目として皆さんは高校生となりました。「楽しい高校生生活」を皆さんはきょうと期待しているでしょう。でも、「楽しい生活」は向こうからは来ません。毎日が充実した日々であるように、そう願うのであれば、どんな自分から高校生生活に飛び込んでください。同朋にはそういった活動の場がたくさんあります。学習でもA PとかE Pとか、授業外の場があるし、部活動も多数あります。生徒会の活動や学外の高校生と活動する高校生フェスティバルの活動もあります。飛び込んだときいろいろな困難や困りごとに出くさることでしょう。その困難や困りごとは皆さんを「成長」「開花」に向かわせる「休眠打破」のきっかけとなるに違いありません。受け身の人生ではなく、時には困難や困りごとに出くさるかもしれない主体的な人生を送りましょう。

最後に、本校は親鸞聖人の教えに基づく真宗大谷派関係学校の一つです。「同朋」とは誤解を恐れずわかりやすく言えば、同じ志を持つ「仲間」「友」という意味でしょう。今日ここに集う皆さんは「同朋」です。生徒、保護者、教師とそれぞれ立場や役割こそ違え、願いはつ生徒一人一人の健全な成長です。私たちが「同朋」として皆さんと接しますし、保護者の皆さんも「同朋」として学校運営のよきパートナーとして私たちに接していただく。

今日を機会に、新入生はもちろん保護者の皆さんも私たちの関係を深め、まさに「同朋」としてこの同朋高校とともに歩んでいただけるよう、お願い申し上げます。私の式辞とさせていただきます。

(学校長式辞より)

入学式保護者ガイダンスの様子



新入生 誓いの言葉

新入生代表
105 宮崎 沙耶
(山王中学出身)



あたたかな風が吹き、春の息吹が感じられる良き日、私達新入生391名は、いよいよこの同朋高校に入学することとなりました。あの東日本大震災により、多くの方々が大変な思いをされている中、私たちがこうして無事に入学できたのは、とても素晴らしいこと、そしてありがたいことです。

高校入学というこの第一歩は、期待と希望に満ちていると同時に、大きな不安と緊張も含まれた一歩だと思えます。なぜなら、これから先の道は、己の考えで切り開いていかなければならないものだからです。今の私たちは、義務教育から解放されて初めて自由に進む道を選ぶようになりました。しかし、その反面、自分の選択一つには今まで以上に大きな責任が伴うようにもなります。今、ここに立つて私の心の中は、その責任に対する不安でいっぱいですが、しかし、自分で選んだこの道で、その不安と戦い、必ず立派に成長していきたい、という決意の気持ちもあふれています。

受験当日にはライバルに見えた周りの人も、今日この時からは、3年間共に学び、笑い、助け合う仲間となりました。一人ひとり入学した理由は違っても、本校でたくさんの楽しい思い出を作りたいという気持ちは、皆同じだと思います。それを叶えるために、先生方をはじめ先輩方、まだまだ未熟な私達ではありますが、どうか温かいご指導をくださいますよう、お願い申し上げます。

最後になりますが、本日は私たち新入生のために、このような入学式を催していただき、ありがとうございます。私たち新入生一同は、この新たな仲間たちとともに、本校の名、そして自分自身に恥じぬよう、卒業を迎えるまでの3年間を精一杯悔いのないよう過ごすことをここに誓います。

2012年4月6日

体育'12年度 大会

学年を超えて群団対抗で行う体育大会。今年度は応援合戦のリーダーとなる3年生の計画的な行動力で、テスト週間に入る前までにどの群団も応援合戦の構成が完成していたようです。そしてテスト終了日からの群団も活気ある練習を開始していました。準備期間が1週間と限られた時間ながらも、どの群団もチームワークを発揮し、見事応援合戦を完成させていました。

体育大会当日は小雨の降る中でしたが、ルールを守る姿勢や競技に向かう姿勢は素晴らしいものがあり、順調に体育大会を進めることができました。また、体育大会実行委員生徒が前日までの準備、当日運営を行っています。皆責任を持って行動しており、体育大会の質が向上していることを感じています。陰ながら運営に携わった実行委員生徒に感謝します。

競技部門においてはどの種目も皆本気で取り組んでおり、見ごたえあるものでした。特に男子のトラック競技は年々向上しており、皆を引き付けるものとなっています。

応援合戦では優勝した橙群団は周囲から歓声の沸くはじまりで、団結力とアイデア力で見事優勝を果たしました。Tシャツの作成においても昨年度からシングルなものでした。完成度は高く、各群団アイデアを感じさせられるデザインでした。

(体育大会実行委員会 小川 幸子)

大会結果

競技部門 (群団別)	優勝	灰色群団(109/203/301)
	準優勝	赤色群団(107/305)
	3位	白色群団(105/201/309)
競技部門 (クラス別)	優勝	3年6組
	優勝	3年7組
	3位	3年1組 3年4組
応援部門 (群団別)	優勝	橙色群団(111/204/308)
	準優勝	黄緑色群団(108/209/302)
	3位	桃色群団(103/202/310)

「橙」が舞った！最高の応援合戦

308 葛谷 元貴
(宮市立北方中学出身)

今年の応援合戦は、昨年、一昨年とは何もかも違った。練習に臨む姿勢、クラスの雰囲気、ダンスや曲のアイデア。すべてにおいて今年は上回っていた。初めて「優勝」の手応えを感じた。絶対に優勝できると思った。

最初はなかなか練習の空氣がでず、苦しい時期もあったが、群団長である鈴木勇仁君の必死の呼びかけもあり、1、2年生がしっかり練習に参加してくれるようになってきた。どのクラスよりも時間と熱意をかけたと思えるくらい頑張つて、段々雰囲気が変わつてきた。

自分のモチベーションも、去年までとは比べものにならないくらい高く、後輩に教えた、家で練習をしたりした。それは、最高学年として「ひっぱらなきゃいけない」とか、「いい思い出をつくりたい」とか、「友達を裏切れない気持ち」とか、いろいろな

感情が生まれたからだ。まわりで頑張ってくれた仲間も、きつと同じ気持ちだったと思う。

優勝候補と言われながら本番を迎えた。本番直前に、後輩に向かって「大きい声出して、盛り上げよう！」と声をかけた時、後輩はみんな大きい声で返事をしてくれたので、もう絶対大丈夫だと確信した。本番はみんな笑顔で本心に楽しそう、あつという間に終わってしまった。でも、終わった瞬間の歓声を聞いて、今までの準備のことも「思い出して、心から「終わった」と思った。

担任の内田先生が「優勝させてやりたい」と言ってくれたことで、逆に自分たちで頑張つて優勝して、内田先生を喜ばせてあげたいと思った。無事応援合戦で優勝ができて、みんなと喜び合えたことは自分にとっても大きな財産となった。

フレッシュマン合宿

4月17日から4月19日にかけて、1年生は2団に分かれて「フレッシュマン合宿」を行いました。1団（101・104・109・110）は岐阜県郡上市で、2団（105・108・111）は愛知県西尾市での実施となりました。

1年生にとっては、初めての宿泊行事となりましたが、基礎学力検定（基礎検）の合格に向けた学習への取り組みだけでなく、各クラスで実施したレクリエーションを通じて、次第に生徒が打ち解けあい、最終日に学校解散となった際は、友達同士で合宿の名残を惜しむ姿を見受けました。

今回の合宿に参加した生徒も、真摯な姿で学習に取り組み、最終日までに約7割の生徒が基礎検1級に合格しました。また1級まで到達できなかった生徒についても、特別補習を通じて、歩ずつ着実に苦手だった科目への理解を進めていきました。

「これまで、こんなに勉強したことなかった！」と声を上げながら、うれしそうな顔で合格の答案を受け取った何人もの生徒たちの笑顔が深く印象に残りました。

（1年学年主任 大野 晋也）



312 三輪 愛絵
（宮市立中部中学出身）

オーストリア修学旅行に出かけ、私が一番印象に残っているのは、ウィーン少年合唱団との交流会です。

ウィーン少年合唱団の子どもたちは、日本やアメリカなどの世界各国への公演ツアーがあります。ツアーの無い日は1日8時間の勉強と、2時間の合唱授業があると知り、とても忙しくて大変そうだなと思いました。

私たちは合唱の授業参観をさせてもらいました。歌う前に体操をしてリラックスさせ、体を歌う姿勢に切り替えていました。高い音を歌う時は、椅子から立ち上がると良い声が出るようです。子どもたちは自然と良い歌声になつていくので、私たちには真似できないことだと思いました。すこく透き通った歌声は、聖歌隊にふさわしい天使の歌声でした。授業の終わりに、子どもたちと一緒に合唱をしたり、話ができたりして楽しかったです。

この修学旅行は、本当にたくさん学ぶことがあり、貴重な体験ができ、嬉しかったです。今回学んだことを将来の自分に活かしていこうと思いました。

312 志賀 真由
（尾張旭市立西中学出身）

高校に入学してから、ずっと楽しみにしていた修学旅行に出かけ、たくさん学ぶことができました。

半日かけて飛行機で移動することは大変でしたが、2日目に行ったミラベル宮殿での演奏会が印象に残っています。そこではバイオリンとピアノ、声楽の演奏がありました。ホールではなく、部屋での演奏会だったので、演奏者と近くとても貴重な経験となりました。ホールとは違い、こんなに近くで聴く演奏は迫力があります。音だけではなく、細かい動きや表情がよく見えました。時差ボケが酷く、眠いはずなのに、演奏者の表現力で聴き入っていました。私は周りの人に「表情がない」や「突っ立ち演奏」と言われませんが、このような演奏ができたら、聴く人も楽しむことができるのだということが分かりました。今まであまり気にしていませんでしたが、修学旅行に出かけたことで「もっと表現力を付けなければいけない」と、改めて感じました。卒業まであと1年しかありませんが、これが私の卒業までの目標です。



「やったストレート合格だ」

109 二村 優伽
（柳中学出身）

すべての試験に合格し、基礎検が終わった瞬間はとても嬉しかったです。その後はクラスみんなに基礎検の勉強を教えることができました。私は初めて人に勉強を教えました。この時初めて人に「教える」ことの難しさを知りました。

何人かの子に勉強を教えている中で、人それぞれに得意、不得意な科目があることが分かりました。一人ひとりの子と接して教えていく中で、あまり話したことのない子とも接することができ、距離も縮まりました。

勉強時間が終わり部屋に戻った時、私は合格した喜びで浮かれていました。けれど、周りをよく見てみると、一生懸命に勉強をしている友達の様子が目に入りました。この時、自分が合格したから終わりではないのだと気づきました。この時から一生懸命勉強をしているクラスメイト達に、丁寧に教えるよう努力をしました。少しずつ分かってくれるのを見ると、私まで嬉しくなりました。



3年生 上山研修

4月19日、3年生は全員で京都の東本願寺へ「上山研修」に行きました。

真宗大谷派本山である東本願寺までの往路では、バスの中で「真宗宗歌」「恩徳讃」の練習、到着してからは「身だしなみ」を整え、「大寝殿」へ3年生を代表して、304クラスの氏原真穂さんが記念品を受け取った後、本山から武井弥弘教育部長の挨拶をいただきました。みなさんが人生を決めていく上で大切なことを伝えてくださったと思います。

武井教育部長の挨拶が終わったとき、「姿勢を正してください」という言葉もない中で、3年生全体が「正座」の姿勢になりました。長い間「上山研修」に出かけていますが、周囲を見て、空気を読んで動ける姿を見たことは初めての事です。それだけ皆さんがさまざまな行事を経て成長してきたということでしょう。参加した教員一同、皆さんの姿を嬉しく思いました。本山からの挨拶、初めてのクラスでの行事での姿なども含め、大変有意義な研修となりました。

（3年学年主任 寺町 健）

2年生 遠足

2年生遠足は快晴に恵まれ、それぞれ科に分かれて遠足を行いました。

普通科は、旧中山道の馬籠宿から妻籠宿まで約3時間かけて山道を散策し、商業科は滋賀県の彦根城を散策したのち、彦根市内にある国立印刷局を見学しました。音楽科は静岡県浜松市にある楽器博物館を見学するなど内容は異なるものでした。

馬籠宿から妻籠宿まで歩いた生徒は、「歩きすぎて疲れた」と感想を残す一方で、「自然を満喫できてよかった」と思いは様々でした。また商業科は「充実した社会勉強」となり、特に彦根城で満開の桜を堪能できたと喜んでいました。

こうした遠足が実現できたことも、春休みにクラ連メンバーや担当教員による人みな下見でのチェックがあったからだと思われます。是非、この遠足を高校生活の1つの思い出として心に刻んでほしいものです。

（2年学年主任 高橋 誠）

